

初めての東医体を振り返って

8 月 11 日から 15 日まで開催された東日本医科学生総合体育大会弓道競技に参加しました。大学に入って初めて臨む大きな大会ということもあり、会場に入った瞬間からとても緊張したのを覚えています。強豪校である我が部ならではの張り詰めた空気が流れる中、チーム全体で声を掛け合って士気を高め、これまでにない心地よい緊張感の中で大会を迎えました。

大会までの日々は、学業との両立で非常に濃密な毎日でした。放課後は毎日部活へ向かい、土日には朝から夕方まで 1 日中練習することもありました。大会が近づくにつれて強化練習が増え、外道場へ練習に行ったり、時には同期と誘い合って夜遅くまで練習に打ち込んだりもしました。大変なことも多かったですが、こうして同期とお互いに高め合えたからこそ、自分自身も強くなれたのだと感じています。

いざ迎えた個人戦ですが、一立ち目はどうしても緊張してしまい、思うような射ができず、半分しか中てることができませんでした。すごく悔しかったですがなんとか気持ちを切り替え、二立ち目では大学に入って初めての皆中を出すことができました。最終的には合計 6 中となり、目標としていた女子新人賞をとることができました。さらに、5 人で争った女子個人戦の 2～6 位順位決定戦の遠近競射では、落ち着いて引くことができ、無事に準優勝をつかみ取ることができました。初めての大会で自分の力を出し切り、結果を残せたことは、これからの部活動における大きな自信となりました。

一方、団体戦においては、日頃の練習の的中率順と入念な話し合いによってメンバーが選ばれる厳正なセレクションが行われました。本メンバーは的中率が 7 割を超えるレベルの高さで、今回は残念ながら自分がその枠に入ることはできませんでした。しかし、観客席からの応援でも思わず手に汗を握るような熱い戦いばかりでした。特に全日本医科学生総合体育大会への出場権がかかった 3 位決定競射で勝ち切った瞬間は、鳥肌が立つほど感動しました。プレッシャーの中で堂々と弓を引く先輩や仲間の格好いい姿を見て、来年は絶対に自分も団体戦のメンバーに入って、チームの東医体、全医体優勝に貢献したいと心から思いました。

今回の東医体は、個人として結果を出せた嬉しさと、チームの一員としての熱い思いを味わえた、とても濃い 5 日間になりました。まずは 11 月に控えている全医体に向けて、もっと自分を磨くために部活に打ち込みたいと思います。そして来年の東医体

では、さらに成長した姿でチームを引っ張っていけるよう、これからも練習に励みたいと思います。